

愛知県図書館 企画展示

昭和を訪ねて

昭和は金融恐慌に始まり、戦禍の拡大そして終戦後の復興、経済発展と続く劇的な変動を経験した時代ですが、平成になってからすでに四半世紀が過ぎ、昭和の記憶が次第に薄れつつあります。そんな昭和の事件や人物、人々のくらしや文化をたどる本を集めました。昭和に暮らした人も、昭和を知らない人も、どうぞお手に取ってご覧ください。

期間：平成 27 年 7 月 10 日 (金)
～10 月 7 日 (水)

会場：愛知県図書館 1 階ロビー

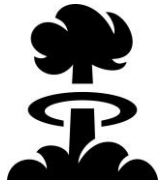
展示資料の一例をご紹介します。展示資料は貸出できます。(地域資料・雑誌を除く)

昭和という時代を振り返る 昭和元年から64年までの歴史をふりかえります



- 『昭和史 決定版』全19巻+別巻1・2 1884~1989 毎日新聞社 豊富な写真で激動の昭和史を記録。
- 『昭和の歴史』全10巻+別巻 1982~1983 小学館 昭和史をわかりやすく解説。巻末に年表・索引あり。
- 『昭和時代 戦前・戦中期』読売新聞昭和時代プロジェクト編 2014 中央公論新社 読売新聞連載をもとに昭和をまるごと描く。「敗戦・占領・独立」「戦後転換期」「30年代」編もあり。
- 『昭和 写真家が捉えた時代の一瞬』木村伊兵衛ほか撮影 2013 クラゲイ 12人の写真家による昭和の写真集。
- 『地図と写真で見る東京オリンピック1964』ブルガイト編集部 2015 実業之日本社 東京オリンピック開催当時の地図や写真と比較しながら現在の東京を歩いてみよう。オリンピック東京大会会場案内図復刻版付き。

昭和と戦争 人々は戦争をどのように体験したのか、手記などを集めました



- 『ぼくが見た太平洋戦争』宗田理 2014 PHP 研究所 三河で少年時代を過ごした著者が自らの戦争体験を語る。
- 『地図で読む東京大空襲』菊地正浩 2014 草思社 東京は一夜にしてどのように焼失したのか? 両国生まれの著者が戦前の地図や空襲後の焼失図などから当時の様子を語る。
- 『祖父たちの告白 太平洋戦争70年目の真実』中日新聞社会部編 2012 中日新聞社 戦争体験者に直接インタビューした記事、中日新聞連載「太平洋戦争最後の証言」を単行本化したもの。
- 『巨大戦艦大和 乗組員たちが見つめた生と死』NHK取材班 2013 NHK出版 2012年に放送された番組の書籍化。
- 『短歌で読む昭和感情史 日本人は戦争をどう生きたのか』菅野匡夫 2011 平凡社 戦中・戦後、歌人から名もなき人まで多くの人々が短歌を詠んだ。当時の人々の感情が短歌とともに鮮やかによみがえる。

昭和の暮らし 少し昔の人びとのくらしぶりをふりかえります



- 『昭和の日本 自動車見聞録』小林彰太郎ほか 2013 トヨタ博物館 戦前の自動車からレースカーまで写真で紹介。
- 『団塊世代60年』北城格太郎ほか 2006 生産性出版 各分野の専門家が団塊世代の社会に与えてきた功罪を検証。
- 『宮本常一とあるいた昭和の日本』全25巻 2010~2012 農山漁村文化協会 民俗学者・宮本常一が監修した月刊誌『あるくみるきく』を地域別・テーマ別に編集した昭和日本の風土記集。
- 『家計簿の中の昭和』澤地久枝 2007 文藝春秋 著者が記した家計簿から様々な昭和のエピソードが見えてくる。
- 『サザエさん事典』清水勲 2013 いそっぷ社 漫画から今消えつつある昭和の風習・モノ・言葉などを紹介。

昭和のベストセラー 戦後のベストセラーを集めました



- 『この子を残して(平和文庫)』永井隆 2010 日本ブックス 長崎で被爆した医師の手記。(昭和24年1位)
- 『どくとるマンボウ航海記(中公文庫)』北杜夫 1973 昭和33年から船医として外洋を航海したエッセイ。(昭和35年3位)
- 『恍惚の人』有吉佐和子 1979 新潮社 認知症介護をいち早く題材にした小説。タイトルは流行語にも。(昭和47年2位)
- 『項羽と劉邦』上・中・下 司馬遼太郎 1980 新潮社 雑誌連載時のタイトルは『漢の風、楚の雨』。(昭和55年2位)
- 『ノルウェイの森』上・下 村上春樹 1987 講談社 今も読み継がれ1千万部を越すロングセラー。(昭和63年1位)

昭和のあの人、あの歌 昭和を代表する人物や流行歌に関する本を集めました



- 『昭和の美人女優』高木清ほか 2011 マガジンハウス 昭和の美人女優を雑誌『平凡』の秘蔵写真で紹介。
- 『大系黒澤明』全4巻+別巻 浜野保樹編・解説 2009 講談社 黒澤明の全著述・全発言を年代順に集大成。
- 『昭和の流行歌物語』塩澤実信 2011 展望社 昭和のヒットソング生まれた背景をつづったエピソード集。
- 『田中角栄 戦後日本の悲しき自画像』早野透 2012 中央公論新社 政治記者が角栄と戦後を重ね合わせて語る。
- 『巨人、大鵬、卵焼き』大鵬幸喜 2001 日本経済新聞社 昭和の大横綱・大鵬が波瀾万丈の半生を綴る。

【お問合せ】

愛知県図書館 総務課 企画グループ
 〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-9-3
 Tel 052-212-2323 Fax 052-212-3674
<http://www.aichi-pref-library.jp/>

【交通案内】

- 地下鉄/鶴舞線 または 桜通線「丸の内」下車8番出口から北へ徒歩5分
 - 市バス/名古屋駅から 幹名駅1・名駅14「愛知県図書館」下車徒歩3分
- *駐車場(有料)の台数に限りがあります。公共交通機関での来館にご協力下さい。

【開館時間・休館日】

午前10時~午後8時(土・日・祝日は午後6時まで)
 休館日: 月曜日、毎月第2木曜日
 *ただし7/20(月)、9/21(月)は開館、7/21(火)、9/24(木)は休館

